

各水試発トピックス

枝幸沖で漁獲された珍しいケガニ

オホーツク海に面する枝幸町は、ケガニの漁獲量日本一を誇り、カニの町として知られます。ここでは、春から夏にかけて、ケガニを漁獲しています。今回は、枝幸沖のけがにかご漁で漁獲された珍しいケガニについて報告します。これらのケガニは、枝幸漁協所属のけがにかご漁船（第 63 善宝丸と第一平成丸）が漁獲し、稚内地区水産技術普及指導所枝幸支所に持ち込まれた後、稚内水試に提供していただいたものです。この紙面をお借りして、関係者の皆様にお礼申し上げます。

珍しいケガニの1つ目は、白っぽい（薄黄色い）ケガニです（写真1）。これは、平成18年4月13日に枝幸沖の水深112mで漁獲されたもので、甲長8.4cmの雄です。写真を見ると、一見して、白っぽい、あるいは黄色っぽい色をしており、写真2のケガニと比べると分かるように、普通のケガニでみられるような赤っぽい色が抜けているようです。よく見ると、甲らや脚自体は白いのですが、甲らと脚の棘（とげ）や毛は黄色を呈しています。ただし、眼だけは普通のケガニと同じように黒色でした。なお、甲らが黒っぽく見えるのは、甲ら内部の色が透けて見えたものです。

この薄い黄色のケガニは、赤い色素を作る遺伝子に欠陥がある色素異常だと思われます。カニ類の色素異常は、北海道では、白いタラバガニ、ハナサキガニ、ザリガニ、青いタラバガニなどが知られています。しかし、この薄い黄色のケガニは、これまでに報告がなく、非常に珍しいものです。

2つ目は、写真2のケガニです。これは、平成17年7月16日に枝幸町音標沖の水深126mで漁獲されました。一見すると、色も形も特に変わったところはなく、普通のケガニに見えますが、右

側の後ろから2番目の脚が小さいことに気づくかと思います。これは脚が折れた後、脱皮の際に再び生えてくる“再生脚”で、それほど珍しいものではありません。しかし、もう少し注意深くみると、この再生脚を含め左右ともに脚（ハサミを含む）が6本あることに気づくでしょう。そうです、カニの脚は普通、左右5本ずつ、合計10本ですが、このケガニには12本あります。以前にも12本脚のケガニが漁獲されたことはあるようですが、それは再生脚から枝分かれして、脚が12本になったようです。今回の12本脚ケガニでは脚の付け根から出ており、元々脚が多かったようです。このようなケガニが売られていたら、買った人は脚2本お得？

（稚内水試資源管理部 三原栄次）



写真1 薄黄色のケガニ。オス、甲長 83.6mm、
体重 323g、甲殻硬度 2（若ガニ）



写真2 12本脚のケガニ。オス、甲長 92.8mm、
体重 406g、甲殻硬度 3（若ガニ）